極秘親展

1929

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和一九、八、三

電報

八一一七〇四號
三一一三一一書 八一一一四四〇受付
提出

總長宛

京都師團長

京都師團參謀電第三三八號

七月二十六日附軍令陸甲第九八號ニ據ル部隊ノ編成第一日ハ八月十一日

編成完結 八月十五日

編成地 獨立歩兵第四百二十五大隊 敦賀

獨立歩兵第四百二十六大隊 京都

獨立歩兵第四百二十七大隊 阿漕

ナリ

(終)

120

1930

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

極秘親展

1931

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

極秘至急

回答用

電報

總務課長宛

京都師團參謀電第三一四三號

運鐵電第一八二號返

昭和十九年度徴集現役兵派遣人員左ノ如シ

第百十六師團　五四三六（引率者ヲ含ム、以下同ジ）

第百十八師團　三一四五

（終）

昭和一九、八、一〇

八九〇八〇〇發
一三一〇〇著

八一〇九二三四〇受付
一〇〇七四〇〇終了

京都師團參謀

121

1932

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

電報

昭和一九七二三
七三八 一〇發
三一〇 三吉著 七二二 吉受付
三三 墨提出

通電先次長支總臺灣軍輝閣

威部隊總參謀長

威參二電第五三三號（電註通數區分誤ノ爲遅延ス）

當地傍受桑港十六日放送ニ依レバ今般聯合軍將校（司令部ノコトカ？）ハ聯合軍ノ北佛上陸作戰ノ戰法ヨリ爾後太平洋ニ於テ對日作戰ニ應用セン爲ニ研究ヲ爲セリ　參考迄

（終）

1933

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至急

電報

八、一五、三〇〇七着

通電先 總長、大臣、

昭和九、八、一六

八、一五、二〇〇五発

提出

京都師團長

京都師團參動電第三六九號

左記部隊ノ編成ヲ本十五日完結ス

一、軍令陸甲第九一號

獨立工兵第六十六大隊（甲）

二、軍令陸甲第九八號

獨立歩兵第四百二十五、四百二十六、四百二十七大隊

（終）

122

1934

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

電報

昭和一九、七、一七

七一六一一六三〇受付
七一六一一九五〇著 七一七一〇三〇〇提出

總務課長宛

第十四軍憲兵隊司令官

第十四軍憲電第七二八號

高級部員

四班神谷谷諜ヘ

憲兵隊司令部服部少尉ヨリ

七月三日二五名元氣ニ著任ス

一名輸送機ノ爲還ル

懇々ノ御高配ヲ謝ス

（終）

1935

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸軍大臣秘密電報

電報

昭和一九、八、二

ハ一一一〇〇受付
ハ一一一一〇〇提出
ハ一一一八〇〇

ハ一一一〇〇發
二九二五著

總長宛

第二十六師團長

二六師參電第六〇號

第二十六師團ハ七月三十一日ヨリ逐次乘船ヲ開始セリ

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

極秘親展

1937

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日誌用

第二課

電報

昭和一九、八、三

八、二、〇九三〇發
一三四〇著

八、二、一五四〇發
三、〇六二〇著

總務課長宛
二六師參謀第六二號

第二十六師團參謀長

第二十六師團加藤參謀長ノ上京ハ師團乘船狀況ノ都合上之ヲ取止メ福岡ヨリ直接飛行機ニテ馬尼剌ニ先行ス

連絡ノ爲ニハ丹羽參謀上京ス

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1939

極秘親展

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

至急電　報

昭和一九、八、一三
一六〇〇發
八、一三、一九二〇受付
八、一三、二三〇提出

留守第五十二師團長

通電先、總長、大臣、東部軍司令官、第九師團長
金師參編電第二三八五號

昭和十九年動第四九號ニ基ク第九師團第二、第三、第四野戰病院八月十二日動員完結ス

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二號

電報

昭和一九・八・六 兵綜復寫

八三一五三〇發 八三一九四〇受付

一七三〇著 八五三一三〇提出

第十六航空通信隊長

兵站線監部參謀長 宛

第十六航空通信隊電第一七號

一、第八飛行師團參謀長ヨリ當隊ノ空輸ハ無線九分隊トノ通知アリタルニ付暴ニ通報セシ配屬セラレタル人員器材數量等ハ左記ノ如ク

一語不明 處置セリ

人員 將校六・下士官兵七六・計八二

器材（其ノ他ヲ含ム）一〇〇六梱 重量六〇七二四〇瓩

容積三〇七〇立方米

通電先 第一航空軍參謀長

第八飛行師團參謀長

配布先 第二課・第十一課・野航兵長・航空總監部

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電報

昭一九、六、一二
六、一一〇六〇〇
一八四〇発

兵站總監部參謀長宛
輝兵電第二〇七號

輝部隊參謀長

兵總乙電第一〇六一號ニ依リ車輌無線機乙ヲ補給スルヤウセラレアルモ輝兵電第六號ノ申請ハ車輌無線機甲ナルニ付變更方考慮セラレ度

通電先、成、參考、兵總

配布先、〇野兵長、〇野中課長、〇野車課長

(終)

1942

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電〇一二〇九

海軍省受信 八月三日 午後四時四十分
参本 三日 受付
發 鹿屋航空基地

新二航空艦隊参謀長

報 参謀本部一部長、陸軍航空本部総務部長、飛行第戦隊

現状調査ノ結果八月二十三日戦隊急速錬成ノ為ニハ左記対策急施ノ要アリ至急可然取計ハレ度

一、在宇都宮偵察學生三〇及偵察練習生一二ノ繰上卒業十五日ハ現在偵察員教員一名ノミ

二、撤去整備中隊ノ配屬(九八戦隊七戦隊共基地隊員配屬ナシ七六二空ニテ擔當ノ要アル處今次ノ改編等同隊ニハソノ餘裕ナシ)

127

1943

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三七戦隊教員トシテ偵察員電信員最小限各一二名ノ配員（現在七六ニ空ニ餘裕ナシ）尚七戦隊急速戦力増強ノ為ニモ之等ヲ同隊ニ編入ノ要アリ）

一式双発偵察機三機ノ供給（航通練用）

十六號供給ノ促進（現在ノ予定ヲ以テセバ機種改編ノ九月中旬トナル見込）

（終）

1944

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和一九、八、一一

電報

（〇四四三三）
（〇四四五八）

八月十日一七二四海軍省受信
十一日陸本部受付

鹿屋航空基地

一〇一一〇七

發　第二航空艦隊司令長官

通報　陸軍航空本部總務部長・陸本部一部長

鄭城陸軍飛行場ノ海軍供用ノ件ニ關シ第一（西）飛行場ハ陸軍線
智航空隊使用中ナルカ相當距離ニ付中央協定通第二（東）飛行場
（現在一五〇〇米、幅五〇〇米滑成附屬施設皆無）ヲ使用ノコトト
致シ度、差當リ第一四一海軍航空隊ノ大部（偵察機約三〇機、夜戦
約一〇機）ヲ此間又大型機ノ遁退基地トシテ使用ノ豫定、就テハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同飛行場工事ヲ促進スルト共ニ左記諸項ニ関シ至急御手配ヲ希望

一、海軍用宿舎三千名分（第一次一五〇〇名分「バネル」一式八月末完成、第二次一五〇〇名分標準型宿舎九月末迄完成）ノ急速新設（備考）差當リ小學校借用中

二、風明燈特急工事トシ八月中完成

三、飛行場掩體大型使用五〇、小型用五〇ノ急速造成

四、耐弾式地下通信室指揮所防空壕燃料格納所等ノ新設

五、海軍又ハ陸軍防空隊居住設備

六、以上工事施ノ為海軍設營隊一隊ノコトニ配備

（終）

1946

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課

回覧用

昭和一九、一〇、一六

一〇一五 二〇三〇發 一〇一五 二三五〇受付

特緊電報

一〇一五 二二三二著 一〇六〇六四〇提出

次長宛

新田原飛行場大隊長

新田原依頼電第六七號

第一航空艦隊ヨリ

十五日朝鹿屋飛行戦隊ニテ判明セル今次敵船隊攻撃概況及戦訓等

「今次臺湾附近ニ現出セル敵ノ船隊ハ少クモ航空母艦一六隻内外ヲ基幹トセル「五八」（電註、「三八」トナラズ）特別「一語不明」部隊ノ全力ニシテ十五日朝我ガ海軍機ノ捜索ニ依レバ四隻ノ航空母艦ハ南方ニ向ヒ遁走中ナリト

左記我ガ數次ノ攻撃ノ戦果等ヨリ判断スルニ少クモ一〇隻内外ハ撃沈破セラレタルモノト思考ス（内撃沈六隻確實ナリト）

海軍側ニ於テ調査セル十五日朝迄ノ戦果次ノ如シ

「尚検討ヲ要スト認ムモ取敢ズ」

（裏へ）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十二日夜航母六ー八（正規三ー四ヲ含ム）撃沈破
十三日夜航母三ー五（正規二ー三ヲ含ム）撃沈破
十四日夜大型航母一、小型航母一、戦艦二、甲巡一撃沈
小型航母一、乙巡二撃破

二、九十八飛行戦隊ノ攻撃状況

飛行戦隊長以下一三機ハ十二日二十三時五分攻撃セルモ戦果不明

宮島少佐以下一五機ハ十四日十八時三十五分攻撃大型航母一、小型航母一、乙巡二ニ火災ヲ生ゼシメタリ

右ノ内戦艦ハ齊藤大尉機ノ轟沈セルモノナリ（齊藤大尉ヨリ聽取）接敵高度約五〇米我ガ方飛行戦隊歸還機ハ現在二機、合計五機ハ確實ニ生還セルモノト認メラルモ他ハ消息ナシ

三、戦訓及敵行動

(イ) 敵艦隊ハ夜間各群ヲ一箇所ニ集結航母ヲ中心トセル大輪型陣ヲ構成シ特ニ「スコール」又ハ雲多キ海面ニ停止シアルモノノ如シ之ガ爲十二日夜ニ於ケル我ガ攻撃直前ノ照明機ノ照明ハ不成功ニ終レリト

1948

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ロ) 攻撃時敵微速ニテ防戦スルモ特ニ敵防空砲火ヲ一方面ニ吸収シ
ツツ他ノ方面ヨリ攻撃スルハ有利ニシテ九十八飛行戦隊齋藤大
尉機ノ戦艦擊沈ハ其ノ結果ニシテ攻撃終了迄敵戦艦ヨリ全ク防
空火力ヲ受ケザリシト

(ハ) 攻撃ハ夜間ヨリモ薄暮ヲ可トス

今次ノ攻撃ニ於テハ殆ド敵戦闘機ノ見ルベキ活動ナシト　右ハ
臺湾ニ於ケル我ガ航空ノ撃墜戦果ノ大ナリシニ依ルモノ多キモ
又薄暮以降ニ於ケル敵戦闘機ノ活動ハ意ノ如クナラザルモノノ如シ

(ニ) 敵艦隊ノ電探対撃ハ一萬米迄有效ニシテ宮島編隊ノ攻撃
時敵巡洋艦ノ防空火力ニ依リ接敵間撃墜セラレタルモノアリト

(ホ) 薄暮及夜間攻撃ノ實施ニ際シテハ特ニ攻撃終了時ノ收容ニ對
スル周到ナル準備ヲ必要トス然ラザレバ折角基地ノ近ク迄歸還
シツツ着陸シ得ザルモノ相當アルモノノ如シ

(ヘ) 今次攻撃ニ於テ敵ハ防雷網ヲ實施シアラズト

（終）

1949

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

課長

防衛作戦日誌抄

三十一日夜帝都敵機來襲狀況

防空情報室

一、概要

第一次二一三五頃
第二次二三四五頃
第三次〇四四五頃

共ニ一機ヲ以テ駿河灣方向ヨリ北上、富士山、八王寺附近ヲ經テ帝都ニ侵入

第一次二一五三頃
第二次〇〇一〇頃
第三次〇五〇五頃

何レモ燒夷彈若干ヲ投下シタル後九十九里濱方向ヨリ脫去セリ

1950

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、被害概要

第一次　御徒町附近……全燒六八九戸半燒三九戸死一負十

第二次　上野驛前附近
淺草……全燒一六戸半燒二三戸死三負八行方不明一

第三次　東、西小松川附近……全燒一戸半燒一戸

三、邀擊概要

第一次　八一機　AA射耗彈　二一發
（B一）

第二次　八六機　AA射耗彈　二五二發
（A4B2）

第三次　AA射耗彈　三五發

四、戰果確認スルニ至ラズ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和一六一二一〇

電報　一二一〇〇八〇〇著　一八四五發

樺太通信所長

宛

樺太廳長官

樺警四一號

一、カムチャツカ州警備隊ハ十二月九日日、米、英開戰ヲ禁下部隊ニ傳達スルト共ニ國境及防衛警察ノ非常警備並ニ衛兵及內務勤務ノ非常勤務ヘノ移行ヲ命ジタリ

二、北樺太國境警備隊ハ日、米開戰ニ伴ヒ在留日本人志氣ノ變化ヲ調査シアリ

追電先　北軍　陸　參　防　總

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課

防衛班

極秘至急親展

電報

次長宛　　父島要塞司令官

六二四　〇〇一〇〇發
〇〇四三〇着

六二四　〇〇四〇〇受付
一〇三〇提出

昭和一九、六、二四

父島電報第三五號（電註、一部未着目下再電要求中ナルモ取敢ズ配布ス）

參謀次長、第二課長ヘ　　晴氣少佐ヨリ

硫黄島ノ防備方針ニ就テハ希望ノ通到着以來現地ニ付檢討セシカ從來ノ水際陣地ヲ第一陣地又ハ偽陣地トシ（三角標高九四、一〇高地）ニ主力ヲ配置シ敵上陸ニ當リテハ火力及機動ニ依リ之ヲ撃滅スル方針ノ下ニ陣地構築ヲ修正シ其ノ他所要ノ措置ヲ採ラレツツアリ

右方針ニ基キ陣地構築ノ時機ハ本月末ノ豫定

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍機極秘親展

138 1954

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸密第

電報

昭和一九・六・二四

六二三一六五〇〇發
二二三〇〇着

六二三二三一五受付
六二四〇六二五提出

總長宛

父島部隊長

父島聯電第三四號

次長、第二課長ヘ

時氣少佐ヨリ

一、硫黄島部隊ハ志氣旺盛ナリ師團長以下銳意防備ノ促進ニ努力セラレアルモ防備ノ現況左ノ如ク未ダ十分ト認シ難シ陸軍兵力歩兵六大隊非常約五千人ノ兵力ニ対スル海軍ハ概ネ良好ナルモ上陸部隊ハ老齢ニシテ戦力微弱ナリ　暗号組織ハ概ネ二下一ベトン一型工事ニ着手シアルモ主為大ナル為作業捗ラズ

保存糧秣約六箇月分　現員〇、三箇月分　海軍員五一〇〇

〇

主要兵器ノ南鳥島ヘ復帰ノ件　十四、十、十四

139

1955

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二加六九　七月中旬末裝備完了ノ見込ナリ

第一飛行場完成、第二飛行場滑走路完成、第三飛行場ハ工事中ナリシモ地上施設撤去ノ為一時中止シ

三、近ク敵ノ上陸ニ備ヘ陸軍セラルル現況ニ於テ出来ル丈ケ速ヤカニ各種整セラレ度具申ス

(1) 戦況ナル敵ノ猛撃ニ依ル既定ノ戦況ニ於ケル所謂ハ空ミ起ル大ナルベキヲ予想シ本ノ兵力整備ヲ遂カニ強化シ特ニ兵器及 力戦闘兵員方面ニ於テ、スレ度

(イ) 兵　力

歩兵三大隊（特設師団トシ編制ハ定数ノ二倍）

十榴一大隊、中榴一大隊、中戦車二中隊、迫撃砲（四七粍）二大隊

(ロ) 弾　薬

「タ」弾一、〇〇〇発、九三式戦車地雷一、五〇〇、破甲爆雷一、五〇〇、爆用照明弾五〇〇

(ハ) 通信器材

九四式二號無線機二（取扱基幹員共）五號無線機一〇、九二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電話機二〇、被覆線一〇〇卷

(二)其ノ他ノ資材

小型照明燈二〇、自動貨車二〇、小型乘用車五、側車一〇、「ボ」メント一一千瓲、移動鐵條網約一〇米分、鑿岩機三、土嚢二萬袋

(2)年少氣鋭ノ下級幹部ヲ左ノ如ク增加相成度

歩兵中隊長要員六、歩兵小隊長要員一八

(3)師團司令部、混成第一旅團司令部、第二旅團、野戰病院ヲ速カニ推進セラレ度

(4)既定計畫ニ依ル小型船ノ進出ヲ捉進セラレ度（海上「トラック」二、機帆船二〇）、尙本島ニ於ケル揚陸能力不十分ナルヲ以テ之ヲ成ルベク多數增加スルト共ニ重材料ハ努メテSS又ハSBニ依ラレ度

(5)二互耗機關砲可及的ニ增加スル如ク海軍ニ折衝アリ度

(6)築城指導要員（特ニ技術者）急派セラレ度

（終）

1957

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍機秘親展

1958

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

連絡

八月十五日　父島埠頭

参謀　石井参謀

沿岸防衛隊

城戸隊

前略

父島の防衛に関して種々御配慮御謝致します。

硫黄島一ヶ月防衛準備も緒に就き日々必勝の確信の湧き起るのを覚えつゝあります。現在迄の状況をあらまし御報告申上ます。

一、防衛の方針に就て

米国撃滅主義を排して敵の砲撃爆撃に耐え射撃対戦車を考慮して戦力を温存しつゝ長期戦

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

強なる戦力を以て行し得るものの成徹底したつもりであります、

従来吉野へ見えた小野陣地と修陣地となし、人工障碍の構築式要塞に徹底、約三週間にて相当徹底した間

宮が吉野へ移りました

（自分が視察した南方要塞、母木の地区も皆同様、然る成れば進撃して見ると確信して居ます、この数度視察を終ります。）

三、地形上の移動について

1、相当有効であるから、強く心配されしも、地上の発見では無く、敵機最高の上空でドンドン爆撃して居りますから、特殊金なし、移動宮殿は理想的の地形です、如何に固いとは言いながら、

2、も一般基礎の移動はコンクリート工事の利用範囲

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

が餘りない理由です。之は出発前に我々も軍の下名等度々申し置いたと思ひますが、生ぬるいはコンクリートの利用よりも、むしろ石工器具、爆薬の方が必要なとであります。

三、希望する点

1、兵力について

おしたけで結構であります。陸軍の如き生産工業と隊の配置を想ひ合はせる点は作戦上備に心配き確信が湧き起つてゐります。感謝致します。

(イ)地形上、迫撃砲、噴進砲のやき曲射砲力が欲しいと思ひます。(砲と弾丸、ともに信管を噴進弾のみ三発でもよいと思ひます)

(ロ)忠しい信管は、三、三月の期了附いてゐるから、もう五年大隊を配置せられたなら島嶼防衛に一大新生

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

面を開拓し、国を得ると云います。

(彼は工兵隊の分中隊すらいは増りますが、要塞地の如きものすら、いう。

宜力を有する工兵大隊を第力すべき事を面いは配置

します、

サイパン其の他が僅か四期まで玉砕した一つは大きな理由

は我々にもあるのだが、陣地に縦深がなく、殆ど平面的

陣地であり、要塞的準備及び作戦的準備(軍事、

補給、水の自給)の不足に基因する。八丈島に於ては

三度ゴ潜(一帯に亦た通信を設備し、相当の陣地

地帯を作り度いと考へます。(これは工兵が是非必要だ)

(ハ)点の頭数を増すよりも、陣地の多い事を希望

致します。

2. 陣地、弾薬、補給品等の陸路輸送について、

隨時の応戦態勢備に支障なからしむる為には、

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

P大阪作戦
輸送

5

○も軍艦一、二隻戦没、撃破されし月没、隠蔽艦三十隻の迅速なる集積と思はれます。

中の輸送も思ふ如くは参らず、八月にかけて(すると思)

まず一度も船が撃破せず好成績です。

3、敵の輸送路に就て

作戦準備に必要なる兵力を早く送つて戦を

度い。

目下最も早く輸送を待望されるものは、第一、二

独立隊、第二、陸上輸送隊です。いつ参着迄

右の如き勝手なことを申しましたが、軍と当方面の

作戦準備は着々進捗し、陸海、陸海さへ希望の

如く到着すれば、十月中旬迄には必勝不敗の態勢

完成し、日本反撃の礎を固めたり得ると確信する迄

第です。何卒宜しく願ふ。

陸軍

1963 145

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

乱筆乱文御容赦願上

暑さの日愛し健勝を祈つ、まず

八月十五日

敬具

一神

真田部長閣下

服部課長殿

吉田の件宜敷願

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電課

三

秘

電報

一一七一六二〇發
二〇三〇著

昭和一六一一一八

朝鮮軍參謀長

總務部長
經理局長
整備局長
宛

朝參電第三三〇號

本年七月以降行ハレシ百號輸送ハ朝鮮鐵道局ヲシテ戰時朝鮮、滿、支鐵道運用規定及大陸命、同指示ニ基キ實施セシメタル所左ニ依リ左ノ通收入減ヲ生ジ且臨時施設費ヲ要シタルニ付之ガ保償ニ關シ配慮相煩ハシ度

追ツテ其ノ說明ノ爲總督府鐵道局經理課長及近藤中佐ヲ上京セシムルニ付申添フ

左記

1965

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

收入　　金（概算）七六〇萬圓

臨時施設費七。一八六。七五二圓

通電先　陸　參

（終）

1966

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2

第一課

秘

電報

次長
次官宛

朝鮮軍參謀長

一、二八、一九〇〇發
二五、二五、著

昭和一六、一二、九

朝軍參電第九〇六號

廣德通信班ヨリノ通報ニ依レバ「十二月八日「ソ」軍無線通信ノ狀況何等ノ變化ヲ認メズ」ト

（終）

通電先　次長　次官　防總參謀長

148

1967

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

作戰班

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	閲覽
		(七)								
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	

秘

電

次長

次官

宛

報

朝鮮軍參電第六六六號

朝鮮軍參謀長

一二、九、一一

昭一六、一二、一〇

七五三八

五〇

著発

鮮內民心一般ノ動向ハ未ダ治安上憂慮スベキ事項ヲ認メズ寧ロ愛國的運動熱烈揚揚等ノ緊張ヲ示シアリ

鮮ソ國境及北鮮一帶ノ狀況モ異狀ナシ

通電先、參、陸、防、總

(終)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2

昭和一六一二一一

電報　一二一〇一五五〇發
一七三〇著

次長宛　朝鮮軍參謀長

朝參電第六八二號

一、八日朝鮮、「ソ」聯國境方面湖沼、河川ノ凍結狀況左ノ如シ

(1) 晩浦及西藩浦ハ全面凍結シアリ
氷厚十五糎

(2) 黄魚浦ハ中央部結氷シアラズ
湖岸ノ氷厚八糎

二、豆滿江ハ流線部ヲ除キ全面結氷シアリ
氷厚一〇ー二〇糎ナリ

三、朝鮮、「ソ」聯國境方面「ソ」軍ノ動靜ニ變化ヲ認メズ

通電先　陸參　防總　關防　關軍

（終）

150

1969

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課

秘

電報　一二一二一五〇〇發
　　一六三〇著

次長
次官　宛　朝鮮軍參謀長

昭和一六一二一三

朝鮮軍參電第七〇二號

一、戰後ニ於ケル鮮内治安狀況左ノ如シ（第二報）

朝鮮ニ於テハ皇軍ノ赫々タル戰勝ニ依リ皇軍ニ對スル絶對信賴ト必勝ノ確信トニ依リ愛國的氣運益々昂揚シ一般ニ緊張シアリテ治安上憂慮スベキ事象ヲ認メザルモ左記ノ件ニ關シ更ニ注意ヲ倍從シアリ

尙民衆ハ今次開戰ニ關聯シ「ソ」聯ノ動向ニ對シ大ナル關心ヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

有スル者多シ

又戰爭長期下ニ處スル覺悟ニ關スル指導ニ努メアリ

(1) 敵性國人及容疑者ニ對スル緊急要務ハ完了セルモ注意ヲ要スベキ無人ノ動向ニ關シ監視ヲ嚴ニス

(2) 宗教諸團體ノ思想的動向ハ良好ニ向ヒツツアルガ如キモ其ノ內面的考察ヲ強化シ且之ガ啓發指導ニ留意ズ

(3) 經濟的方面モ平穩ナルモ一部買溜、賣惜ミ等ノ傾向ナキニアラズ

(4) 防空態勢ハ逐次強化セラレ空襲ニ對スル民心ノ恐怖心等認メラレザルモ更ニ之ガ指導ノ徹底ヲ期シアリ防衛、防空監視機關ハ管防空ニ即應セシムル必要上總督府ヲシテ訓練ノ形式ヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

以テ其ノ配置ヲ採ラシメアリ

(4)「ソ」領東海岸及北樺太ハ異狀ナキモ警戒ヲ厳ニス

三、豆満江方面「ソ」領ノ狀況ハ変化ナシ

（終）

須賀先　参謀　防衛　制防　甲

1972

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日誌用

至急報

電報

次長宛

朝参電第六六九號

昭和一八、一〇、一四、
一〇、一三、一九、一〇發
二一、四〇着
二〇、四三受
二〇、〇〇

朝鮮軍参謀長

十三日ニ於ケル釜山ノ輸送現況左ノ如シ

一、軍隊一日平均通過人員一五〇〇名

二、單獨軍人二〇〇名乃至三〇〇名

三、一般旅客滯留數五千名ヨリ三八〇名ニ減少シ
平常ニ復ス

四、貨物平常狀態ナリ

（終）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二課

用

電報

總長宛

平壤師團長

昭和一八、一一、五、
二、四、一五、二五發
一八、一二著
一八、五〇受
二一、二〇點

平師參電第一三六號

十一月四日十二時歩兵第四十一聯隊ノ復員ヲ完結ス

（終）

155

1974

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課

極秘至急親展

日誌用

電報

通電先次長次官

朝參電第一五二號

軍令部第四課長齊藤大佐 軍需監足立海軍少將

七月三十一日來部 秘密兵器用資材ヲ興南日窒ニテ緊急

製造ノ件ニ關シ當軍ニ全面的協力ヲ依頼アリ

右ハ軍需省遠藤中將承知ノ由 軍ハ成ルベク速カニ

協力セシムトス 中央部ニ於ケル協定連絡事項至急指示

煩ハシ度

(終)

昭和一九、八、一

八、三三発
三五着

八、二五四五受信
八、三〇受領

朝鮮軍參謀長

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

極秘

電報

通電先 次長、次官、

朝參電第一六二號

昭和一九、八、二六

朝鮮軍參謀長

一、釜山ニハ第二十六師團、獨立工兵第二十八聯隊及新到著部隊ノ外船舶積殘部隊人員多數アリ 七月二十九日合計三萬人ニ上レリ 尚引續キ飛行第八戰隊續々到著シアルモ船舶ノ回航意ノ如クナラズ 逐日滯留人員激增シツツアリ

二、之ガ宿營ニハ廠舍、倉庫ヲ利用シ約一八〇〇〇ヲ收容スル外市中學校、寺院ヲ充當シ萬全ヲ期シアルモ約三分ノ二ヲ市中ニ收容ノ止ムヲ得ザル爲滯留長期ニ及ブ時ハ防諜上有害ナルコトヲカラザルヲ憂慮セラル

三、就テハ此ノ際中央部ニ於ケル船便ト大體合スル如ク汽

1976

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

車輸送ヲ統制シ要スレバ釜山集結ヲ大陸命ニ依リ命セラレタル部隊ト雖モ當軍ニ於テ適宜釜山ノ狀況ヲ勘案シテ朝鮮内鐵道沿線ニ一時待機セシムルコトニ就キ至急詮議アリ度

(終)

1977

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp